

神戸大倉山公園誕生の軌跡

— 大倉家神戸別荘旧蔵品調査報告を兼ねて —

四宮 美帆子

1. 大倉家神戸別荘「安養山荘」寄贈の顛末

現在、兵庫県神戸市中央区西部の小丘に、野球場、「ふるさとの森」、展望台、公民館、児童館、図書館、児童遊園、ゲートボール広場などが集まった「大倉山公園」と呼ばれる場所がある。ここは、かつて安養寺山と呼ばれ、日清戦争後に大倉喜八郎(以下、喜八郎と記す)が、京阪神間を往来する際の別荘の地として約8000坪を買い取り、「安養山荘」と名付けた場所である〔注1〕。喜八郎は、「此處に來りて雄大なる景色を眺望し、眼下に各國の艦船を見て國運進展の推移を思へば、身心爽快一盞甘露の如し」として気に入っていたようだ。

後にこの地と建物は神戸市に寄贈され、伊藤博文(1841～1909)の銅像の建立地となった。本稿では、「安養山荘」が神戸市に寄贈され「大倉山公園」となった顛末を振り返るとともに、寄贈された後に「春畝館」と名付けられた邸宅と、その什器に関する資料調査の報告を行いたい。

小高い丘にあるこの場所は、淡路島の雲煙を一時のうちに収めることができ、伊藤博文が「扇港第一の眺望」、松方正義(1835～1924)が「極楽」と賛美した場所であった。特に初代兵庫県知事を務めた伊藤博文は、「昼夜涼風吹不断、神戸第一の眺望且避暑地に有之」として気に入り、神戸を訪れるごとにこの別荘を利用していたという。

明治42年(1909)10月26日、伊藤博文は、中国ハルビンで非業の死を遂げる。その訃報を受け、神戸市では伊藤の銅像建設の話が持ち上がる。11月には有志があつまり、銅像建設の発起者協議会を開き、満場一致で建設が可決された。

銅像自体は、帝国憲法草案を手にしてフロックコートを着用し、直立して遠近山海を瞻みる姿に造られた。素材は青銅で、丈10尺、西洋家具の父と呼ばれた東京の杉田幸五郎(生没年不詳)の斡旋をうけ、原型の制作は千葉県在住の彫刻家・小倉惣次郎(1843～1913)が行い、鑄造は東京市の久野留之介(助力)(生没年不詳)が担当し、明治43年2月起工、翌年8月に完成した(図1)。しかし残念なことに、この銅像は、第二次世界大戦中に金属供出され、現在では台座のみとなっている(図2)。



図1《伊藤公爵像》『故伊藤公爵銅造建設顛末』より複写

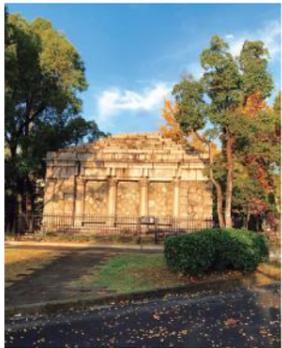


図2 現在の《伊藤公爵像》台座造建設顛末(2022年11月撮影)

一方で、現在まで残る銅像の台座は、四面方形の石造りで、下層は野面石を崩れ積とし、上層は階段造りに畳積(階段状ピラミッド)、高さ31尺5寸。工学博士・中澤岩太(1858～1943)の推薦で京都大学初代建築学科教授の武田五一(1872～1938)が設計。銅像に次いで明治44年2月に起工、4月に地鎮祭を行い、10月26日に竣成した。因みに台座上部のデザインは、国会議事堂中央部分と類似しており、これは武田五一の弟子である吉武東里(1886～1945)らが師匠のデザインを取り入れて国会議事堂を建設したためといわれている。

喜八郎は、伊藤博文暗殺の翌年の明治43年4月から6月までの満洲視察の途次に、ハルピンに赴いて遭難の現場を吊っている。そして帰国後の6月3日、神戸に立ち寄った際、神戸市で伊藤博文の銅像建立の建議がなされたことを知った。銅像建立地は、県庁の玄関前や、メリケン波止場、相生橋畔元標など様々な候補地が上がったが、ついに諏訪山金星台を適所としたという。満洲より帰国した喜八郎は、神戸の実業家・武岡豊太を伴い建設候補地を視察に行っている。視察を終えて別荘に戻った喜八郎は以下の言葉を武岡に伝えた。「欧米各國に於ける偉人の銅像は多数人の朝夕接見し易き公園、または市街の衝點等を選べり。今諏訪山を見るに其景勝は甚だ可なり。唯老若男女態々上らざれば見るを得ず、未だ好適所といひ難し。此意味より唯今車中にて考ふるに、此山荘に建設せば優れりと思ふ如何。」と語り、伊藤が愛した喜八郎の別荘地を、銅像建設地として神戸市に寄贈し、同時に公園として市民に開放することで、伊藤の英霊に対する手向けとなると考えたのである。翌日の6月4日には、兵庫県知事や神戸市長に寄贈について諮るといふ速さで話は進んだ。市長は8月の神戸市会にて、寄付行為を附議し、安養山荘を大倉山公園と称することを議決、宅地約2000坪、山林約4300坪、畑約800坪に、別荘13棟、並びに什器設備一切を神戸市に寄贈することとなったのである。

『故伊藤公爵銅造建設顛末』には、銅像建設の顛末のみならず、経費詳細、資金寄付者の名前が載せられる。寄付者の名前には、1,000円を寄付した藤田傳三郎(1841～1912)や、800円を寄付した川崎正蔵(1836～1912)ら、京阪神にゆかりの財界人を筆頭に、会社名を含む439件が記され、総額は24,096円にのぼっている。

「安養山荘」を神戸市に寄贈した際の記念の石碑が大倉山公園内に建立されている。材質は讃岐(香川県)庵治産の花崗岩を用い、高さ10尺(台座を含めると13尺余り)、幅5尺あまり。現在も公園内に残っている(図3、4)。表には「大倉山公園碑」と題され、有栖川宮威仁親王の篆額、文学博士・三嶋毅(中洲)(1831～1919)撰、日下部東作(鳴鶴)(1838～1922)書、神戸市長・鹿島房次郎(1869～1932)建立とあり、裏は、喜八郎(鶴彦)による「此里と共に／さか江よなれ来つる／松のあるしは／けふかはるとも」の歌が記される。大倉山公園開園日の明治44年10月の日付が付

された表面の拓本は、大倉集古館に所蔵されている。(図5)



図3《大倉山公園碑》表(2022年11月撮影)



図4《大倉山公園碑》裏(2022年11月撮影)



図5《大倉山公園の碑》(拓本)大倉集古館蔵

2. 春畝館什器調査報告

大倉山公園の中にあつた大倉家別邸は伊藤博文の娘婿で文学博士の末松謙澄(1855～1920)が「春畝館」と題し、公園開園以降は神戸市の貴賓接待所となっている。その後の昭和48年(1973)からは「神戸市立大倉山老人いこいの家」として使用されたが、平成7年(1995)1月17日の阪神・淡路大震災で全壊してしまい、今は存在していない。

この春畝館とその什器(絵画・書跡)の写真を載せたアルバム、そして什器として所蔵されていた絵画作品3件4幅が、現在神戸市立博物館に所蔵されている。以下、その調査報告を行いたい。なお、絵画作品の名称は、所蔵者表記を継承した。

1. 《春畝館アルバム》(表1およびアルバム写真参照、112-117頁) アルバムの外箱には「1984 博物館 大倉山 春畝館 収蔵写真アルバム」と記され、1984年、つまり昭和59年の日付がついている。このアルバム写真の撮影日は不詳であるが、写真自体はセピア色のモノクロで、装丁などから戦前のものと考えられる。昭和

59年に撮られたものではなく、明治44年に大倉山公園が開園した際に撮影された写真ではないかと考えられる。中には、35ページ分に春畝館の外観や、館内に飾られた書額、絵画軸、工芸品などの写真が貼りこまれている。24ページ目に1枚写真が剥がれ落ちた痕跡があるが、それ以外は完存していると考えられる。

まず、建物の外観や庭、座敷や洋間の様子を写した写真から始まる。この部分から現在は存在していない喜八郎の旧別荘の様子を知ることができる。次に扁額や掛幅に仕立てられたと思われる書作品の本紙部分の写真が続く。書の筆者を見ると、明治の名だたる実業家や政治家であり、その内容や年号から、伊藤博文の死を悼んで揮毫されたもの、大倉山公園開園を祝うものなどが中心と分かる。伊藤から喜八郎宛の書簡なども含まれている。書の後には絵画や工芸品の写真が貼りこまれている。絵画は落款部分が気づらく、筆者名が確認できないものもあるが、リストを表1に記した。

2. 伝岸駒《寿老人図》(図6)

絹本墨画。本紙は95.5×33.3cm。箱の口貼りには「岸駒筆／福祿寿図／春畝館蔵」。 「越前守(介カ)岸駒」の落款。「可観岸駒」白文方印が捺される。

如意を持った高士が、白い牡鹿の背にもたれかかる姿で描かれる。白い牡鹿の存在から、ここに描かれた人物が寿老人であることがわかる。



図6 伝岸駒《寿老人》

3. 伝曾我蕭白《仙人図》(双幅)(図7、8)

紙本墨画。本紙は各122.0×51.0cm。箱の口貼りには「第弐〇號／鬼借斎筆／雪中外二仙人笠図、一／笠乗仙人持竿図、一／紙本古画 縦軸／双幅」。各幅に「鬼伸斎」朱文楕円印、「暉一」朱文円印が捺される。

右幅は、雪が積もる竹叢を背景に、寒そうに衣で体を包み、高下駄をはく人物。これは仙人ではなく、蘇東坡を描いたものであろうか。蘇東坡が海南島にいた時、雨に降られ、笠と下駄(屐)を借りた様を描いた《東坡笠屐図》に類似の表現があり、背景を雨から雪が降り積もる場面に変えたものという解釈も成り立つ。

左幅は、《笠乗仙人持竿図》。水面を渡る仙人が乗るのは、亀の甲

羅にも見えるが、口張りには笠と記される。笠にのる仙人図は、『北斎漫画 三編』に載る、使い古しの傘に乗って川を渡る「傘風子」や、麦わら帽子に乗って川を渡る「陳南」などの存在が知られるが、竿が笠とつながっていないところから《陳南図》と考えられる。



図7. 8 伝曾我蕭白《仙人図》(双幅)

4. 伝十時梅屋(画)、伝貴名菘翁(書)《松図》(図9)

紙本墨画。134.8×59.2cm。

書の落款は「菘翁」、印章は「摘菘翁」白文方印、「君茂」白朱混合方印。画は「梅屋写意」の落款、「両世老儒」白文方印と「梅邊読書」朱文方印が捺される。

箱の口貼りに、「岩にかかる松」とあるが、岩が描かれていないところから、松樹の幹を岩と勘違いしたものかと思われる。絵画は濃墨でしっかりとした筆遣いで画面左から枝を下ろす松葉の様子を描く。所々に松かさがり、秋から冬の季節であることがわかる。



図9 伝十時梅屋(画)、伝貴名菘翁(書)《松図》

5. 村山荷汀《秋景山水図》(図10)

紙本墨画淡彩。112.0×60.0cm。

落款は「辛酉之不春月／半牧子醉筆」、印章は、「邨山椒印」と「其馨氏」朱文方印。

勢いのある線を重ねて競り上がる山を中心に、山間の人気のない山道が描かれる。岩陰にははじけるように描かれた樹木が茂り、そこに代赭が塗られることで秋を表現している。荷汀画に特徴的な、勢いのある筆の作品である。落款から辛酉の年、1861年(万延2～文久元年)に描かれたことがわかる。

箱の蓋表書きには「贈正五位荷汀村山秀一郎君遺墨秋景山水

図」。外題に「贈正五位荷汀村山秀一郎君画秋景山水／大倉山春畝館備品」とある。

そして、箱蓋裏には本図が喜八郎に寄贈された経緯が記される。「荷汀別二半牧と號す。越後三條乃人。安政文久乃間、京坂播淡に往来して、勤王の志士二交り藤本鐵石と最親しく画を教へ書を学ぶ。／鐵石天忠組募拳、戦歿するや、其妻子を伴発して、里に送り、友誼を盡す、後自らも故郷に帰り士気を鼓舞して大義名分を説く、明治元年北越総督仁和寺宮に賊情を報告す。会津の追害あることを予想し山中に屠腹す。大倉鶴彦翁、其國を同くするを以、談偶／及び此幅を贈り、其別邸大倉山春畝館の什となす。因て事由を記して以て紀念となす。 楽山逸史武岡豊識 [楽] 朱文方印、[山] 朱文方印(句読点は執筆後追記)



図10 村山荷汀《秋景山水図》

この箱書きを記した武岡豊とは、淡路出身の実業家・武岡豊太(1864～1931)のこと(注2)。楽山は号。神戸で土木会社を設立。度重なる洪水を引き起こした湊川の改修工事を喜八郎や藤田傳三郎らとともにに行い、新開地の開発に尽力した人物である。先に記したように、伊藤博文銅像の建設地を大倉家別荘であった安養山荘の地に決定する際に、喜八郎に同道した人物である。武岡は歴史文化に造詣が深く、浮世絵収集や勤王志士の顕彰にも注力し、これらに関する文筆も残している。

そして、絵の筆者である村山荷汀(1828～68)は、晩年の号である半牧の名で知られる越後(現在の新潟県)三条の人。長谷川嵐溪(1814～65)に文人画を学び、長崎にも遊学。幕末の京都では、書画家であり天誅組を結成した志士として知られる藤本鐵石(1816～63)らと交わり、尊王攘夷運動にかかわったと伝わる。戊辰戦争の際、長岡藩兵に追及され、慶応4年(1868)6月14日、郷里の山中で自害。名は椒。字は其馨。通称は秀一郎。荷汀は青年期の画号で、後に半牧と号した(注3)。

荷汀は、1861年4月、藤本鐵石の勧めで淡路島に渡り、相川村の庄屋・立田藍川邸に滞在している。本図は、この1861年に淡路島に渡った際に描かれたものと考えられ、在地に伝わったことで淡路島出身の武岡豊太の手に渡ったのであろう。ただし《山水図》(1861年、三条市歴史民俗産業資料館蔵)など、淡路島滞在時期の作品と比べると、落款の書風が流麗で、樹木の描き方は繊細さを欠く。明治以降に荷汀が「悲劇の勤王画家」として英雄視された際に作られた贋作である可能性も考えられ、本図の真贋については後考を期したい。ただし、本図が、武岡と喜八郎、喜八郎と神戸の関わりを示す一つの資料としては非常に重要な作品であることに

変わりはない。

以上の4件が今回調査を行った春畝館什器である。絵画については、箱の口貼りに「春畝館蔵」の記載があるとともに、《春畝館アルバム》にも載っていることから、春畝館什器であったことが明らかである。村山荷汀以外の筆者については、現所蔵者によって、伝承筆者を示す「伝」の文字がついている。これは、画風や書風などから真筆を疑問視することを意味する。そして、《春畝館アルバム》に載るほかの絵画作品についても、線描の弱さや、フォルムの崩れなどから贋作が含まれている可能性が高い。

では、春畝館所蔵の絵画に贋作が多いのはなぜだろうか。喜八郎を知らない者であれば、実業家の収集品だったため、鑑識眼が甘かったのだらうと指摘する向きもあるかもしれない。しかし、大倉集古館に所蔵される喜八郎収集品は、決して贋作が多い訳ではない。そこで考えられるのが、春畝館を寄贈するにあたり、一般市民に開放するものであることから、盗難などを心配し、敢えて贋作を残していったという可能性である。そして、掛物として利用度が高い仙人や鶴などの吉祥をイメージさせる作品や、文人の山水図を選び残したのではないだろうか。一方で、数々の書額は、その内容から所縁や謂れが明らかであり、それぞれが春畝館誕生にかかわる貴重な作品である。さらに、長押など高い所に設置するため、あえて贋作を選び置く必要はなかったものと考えられる。

おわりに

日本陸軍軍医で日本赤十字社社長として知られ、喜八郎が設立した大倉商業学校の創立委員であり理事兼督長となった石黒忠恵(1845～1941)は、喜八郎没後に彼を偲ぶ目的で編まれた『鶴翁餘影』の中でこのような言葉を残している(注4)。「畢竟翁が六十歳の齢に[貴下は藝者と呼んでも喜ばるゝではなし、又珍物を贈つても喜ばるゝではなし、さりとして無論金は受取られないから、又かう云ふ貴下の喜ばるゝことをしませう]と約束して、翁が我々に対し最上の敬意を表し、續々公共事業を目論見られたのが、抑もの動機であつて、余がさうした事業に係るに至つた由来である。」また、渋沢栄一も同書の中で、「私は、この人は商人ながら尋常一様の人ではない。たゞ金儲けにばかりに腐心して他を顧みない商人とは選を異にしてゐる。たしかにわが黨の一人であると思つた。」と記している。

これらの言葉は、近代化を図る明治の実業家の一人として、喜八郎が公益と利益をともに追及する姿を端的に語ったものである。喜八郎は明治期における神戸三大土木事業の一つ、湊川改修事業に、先に記した武岡豊太らとかがわっている(注5)。数度の計画修正を経て、明治29年の第4期計画より喜八郎は事業発起人として名前を連ねているが、この第4期以降は、公共的性格をもつ事業を当時の財界人が主体的に行つた例として重要な事例とされ

る。この湊川付け替え工事のみならず、今回紹介した大倉山公園の寄贈は、近代化を図る明治の実業家の公共事業の一環として果たされたものである。伊藤博文への敬意とともに神戸市民への配慮を忘れない喜八郎の思慮の深さを見ることができる事例として特記すべきことであろう。現在も市民に親しまれる大倉山公園の存在とともに、春畝館什器として残されたアルバムや絵画作品の紹介を通して、明治を生きた一財界人である喜八郎の公益事業の一つをここに紹介した次第である。

(注1)：大倉山公園や春畝館の誕生については、以下の資料を参照した。

『故伊藤公爵銅造建設顛末』(神戸市役所内故伊藤公銅造建設会、明治44年[1911]10月26日発行)、『大倉鶴彦翁』[五 神戸大倉山公園の寄附](鶴友会発行、大正13年[1924]、364～370頁)、武岡豊太「大倉山公園由来」(『鶴翁餘影』鶴友会発行、昭和4年[1929]、173～179頁)、大倉山公園内看板「大倉山と伊藤博文像台座」(神戸市作成、2022年11月23日閲覧)、「中央区のあゆみ史跡・町名編」(神戸市HP「中央区内の史跡一覧」内PDF、https://www.city.kobe.lg.jp/documents/44019/h-6_okurayamakoen.pdf [2023年2月27日閲覧])

(注2)：高久智広「勝義邦撰「神戸海軍操練所碑文稿」と武岡豊太」(『阡陵：関西大学博物館集』84、2022年)、兵庫県庁「湊川改修の経緯」(https://web.pref.hyogo.lg.jp/kok11/ko05_1_00000019.html [2023年2月27日閲覧])参照。

(注3)：村山荷汀については、三条市歴史民俗産業資料館『没後150年村山半牧』(2018年)、『デジタル版 日本人名大辞典 +Plus』「村山半牧」項(講談社、https://kotobank.jp/word/%E6%9D%91%E5%B1%B1%E5%8D%8A%E7%89%A7-17055 [2023年2月27日閲覧])参照。

(注4)：石黒忠恵「大倉翁の面影」(『鶴翁餘影』、鶴友会発行、昭和4年[1929]、5～15頁)

(注5)：前掲注2および、吉村愛子、神吉和夫「明治期の民間会社による河川改修事業の計画と施工過程－湊川改修株式会社－」(『土木史研究 講演集』Vol.23、2003年)

【附記】

本稿をなすにあたり、早稲田大学教授・成澤勝嗣氏、神戸市立博物館の中山創太氏・川野憲一氏・山田麻里亜氏、三条市歴史民俗産業資料館の山田由香里氏にご助言、ご助力を賜りました。末筆ながら記して感謝の意を表します。

表1 《春畝館アルバム》写真リスト

写真No.	ページ	内容	筆者等	時代
1	外箱	背に「1984 博物館 大倉山 春畝館 収蔵写真アルバム」		
2	表紙	花菱文裂		
3	見返し	箔散らし紙		
4	遊び紙	箔散らし紙		
5	遊び紙	装飾紙		
6	遊び紙	雲母摺り唐花唐草文		
7	遊び紙(裏)	雲母摺り唐花唐草文		
8	遊び紙			
9	遊び紙(裏)			
10	1頁-上	春畝館建物外観写真		
10	1頁-下	書額「春畝館」一三書	小林一三	
11	2頁-左	春畝館建物庭園写真		
11	2頁-右	春畝館庭園写真		
12	3頁-左	春畝館建物庭園写真		
12	3頁-右	春畝館建物庭園写真		
13	4頁-左	春畝館庭園写真		
13	4頁-右	春畝館庭園写真		
14	5頁-左	春畝館建物外観写真(玄関カ)		
14	5頁-右	春畝館建物外観写真(蔵カ)		
15	6頁-左	春畝館建物内部写真(床の間)		
15	6頁-右	春畝館建物内部写真(廊下「獅子牡丹図杉戸」)		
16	7頁-上	春畝館建物内部写真(座敷「松図襖」)、書額「邦家宗模人臣憲範」		
16	7頁-下	春畝館建物内部写真(座敷「蘆雁図襖」)		
17	8頁-上	春畝館建物内部写真(洋間)		
17	8頁-下	春畝館建物内部写真(座敷「競馬図襖」)、「青海長雲」書額		
18	9頁-左	「獅子牡丹図」衝立		
18	9頁-右	「鶴図」衝立		
19	10頁	「大倉喜八郎宛書簡」伊藤博文筆、八月十六日付(左側)	伊藤博文	明治31年(1898)
20	11頁	「大倉喜八郎宛書簡」伊藤博文筆、八月十六日付(右側)	伊藤博文	明治31年(1898)
21	12頁-上	書額「青海長雲」、明治戊戌八月、博文題	伊藤博文	明治31年(1898)
21	12頁-下	狂歌額「国のため」、「鶴彦」朱文方印1顆	大倉喜八郎	
22	13頁-上	書額「邦家宗模人臣憲範」、大正甲寅季秋、侯爵西園寺公望書	西園寺公望	大正3年(1914)
22	13頁-下	書額「博集廣観」、慶喜書	徳川慶喜	
23	14頁-上	書額「先生之風山高水長」青淵書	渋沢栄一	
23	14頁-下	書額「撫令進昔 大倉男爵捨春畝館為公園春畝公藝之日詒猶焉之握手也」梁士詒	梁士詒	明治44年(1911)カ
24	15頁-上	書額「鵬程萬里」壬子九月於大倉山 正毅書	寺内正毅	明治45年(1912)
24	15頁-下	書額「萬古清全」慶喜書	徳川慶喜	
25	16頁-上	書額「雲山相對大倉公園恣歎慶一幅画」明治壬子初夏公爵桂太郎題		明治45年(1912)
25	16頁-下	「群鶴図襖」2面		
26	17頁-上	書額「大倉山荘」含雪	山縣有朋	
26	17頁-下	書額「萬古清風」七十八老、世外書	井上馨	
27	18頁-上	「雉図襖」(地袋)蘆雪	長澤蘆雪落款	

写真No.	ページ	内容	筆者等	時代
27	18頁-下	「松図」(風呂先屏風カ)応挙	円山応挙落款	
28	19頁-右	「西王母図」衝立		
28	19頁-左	「詩書画押絵貼図」衝立	複数筆者	
29	20頁-上	書額「神戸市へ別荘を寄附せし時よめる」、「鶴彦」朱文方印	大倉喜八郎	明治45年(1912)カ
29	20頁-下	書額	複数筆者	
30	21頁-上	書簡額	金子兜太郎	
30	21頁-下	書額「神戸なるおほくら山のことにつき大倉正五位の功をたたへたる歌」宮内大臣渡邊千秋	渡邊千秋	明治45年(1912)カ
31	22頁	「鶴図押絵貼屏風」(左隻)		
32	23頁	「鶴図押絵貼屏風」(右隻)		
33	24頁-左	「蔬菜図」(掛幅)常信筆	狩野常信落款	
33	24頁-右	写真が外れた形跡あり		
34	25頁-左	「松に鶴図」(掛幅)応挙	円山応挙落款	
34	25頁-右	「仙人図」(双幅のうち左幅)、印章2顆	曾我蕭白印章	
35	26頁-左	「大倉山公園碑」拓本	有栖川威仁親王筆額、 三島親撰、日下部東伯書、 鹿島房次郎建立	明治44年(1911)10月
35	26頁-右	「秋景山水図」(掛幅)、半牧子	村山荷汀(村山半牧)	
36	27頁-左	「神戸市大倉山にて」(掛幅)、「鶴彦」朱文方印	大倉喜八郎	
36	27頁-右	四行書「寄題大倉山春畝館」(掛幅)錦山矢土勝之	矢土勝之	
37	28頁-左	「山水図」(掛幅)	聲外落款	
37	28頁-右	「琴棋書画図」(掛幅)	蕪村落款	
38	29頁-左	「三行書」(掛幅)、大正甲寅七月、七十三叟素軒	野村素介	
38	29頁-右	「象と唐子」置物		
39	30頁-左	「紅葉に鹿図」花瓶		
39	30頁-右	「寿老人図」(掛幅)	岸駒落款	
40	31頁-左	「桜図」(掛幅)	判読不能	
40	31頁-右	「鳥」置物		
41	32頁-左	「墨竹図」(掛幅)素軒	野村素介	
41	32頁-右	置物		
42	33頁-左	漆器2点		
42	33頁-右	「松図」(掛幅)	十時梅厓落款、貴名菘翁落款	
43	34頁-左	「秋山雨雲図」(掛幅)	梅関落款	
43	34頁-右	「墨蘭図」(掛幅)素軒		
44	35頁-左	「叭々鳥図」(掛幅)	岸駒落款	
44	35頁-右	「仙人図」(双幅のうち右幅)	曾我蕭白落款	
45	遊び紙			
46	遊び紙	装飾紙		
47	遊び紙	箔散らし紙		
48	遊び紙	箔散らし紙		
49	背表紙			

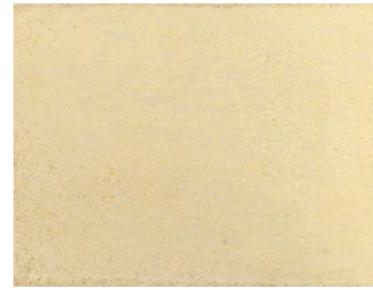
《春畝館アルバム》写真一覧



1.外箱



2.表紙



3.見返し



4.遊び紙



5.遊び紙



6.遊び紙



7.遊び紙



8.遊び紙



9.遊び紙



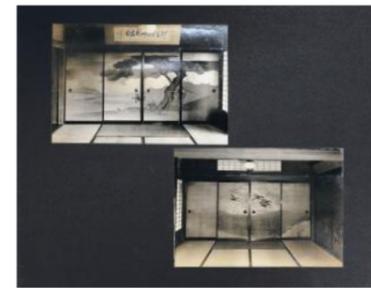
13.4頁



14.5頁



15.6頁



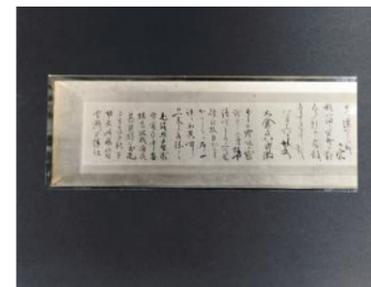
16.7頁



17.8頁



18.9頁



19.10頁



20.11頁



21.12頁



10.1頁



11.2頁



12.3頁



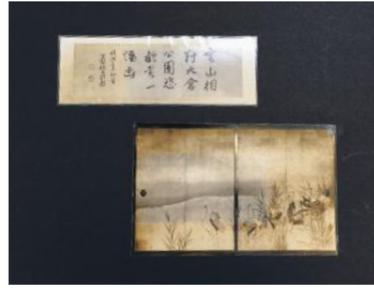
22.13頁



23.14頁



24.15頁



25.16頁



26.17頁



27.18頁



37.28頁



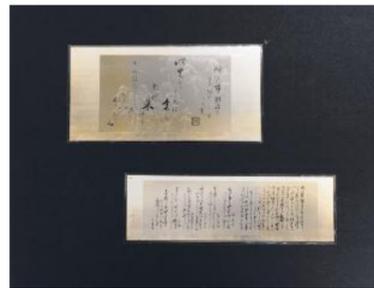
38.29頁



39.30頁



28.19頁



29.20頁



30.21頁



40.31頁



41.32頁



42.33頁



31.22頁



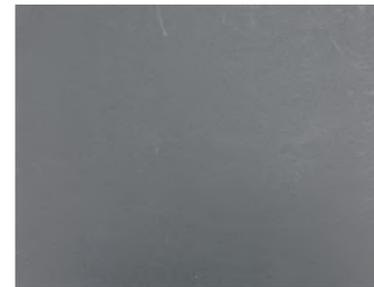
32.23頁



33.24頁



43.34頁



44.遊び紙



46.遊び紙



34.25頁



35.26頁



36.27頁



47.遊び紙



48.見返し



49.裏表紙